

2014 年度事業報告

自 2014 年4 月 1 日

至 2015 年3 月 31 日

公益目的事業

視能障害防止および眼保健衛生の普及・啓発を図ることによって国民の健康維持向上に寄与することを目的とした健診・調査・広報・出版・災害時支援事業と、視能に関する学問・技術の発展と優れた人材育成を図ることによって臨床現場で質の高い医療を提供することを目的とした学会・講習研修・教育事業

【1】国民への眼保健衛生の普及・向上に関する事業

1. 健診に関する調査・支援事業（以下、健診事業）

- (1) 新生児から成人に至るまでの視覚発達に関する情報をインターネットホームページに掲載した。
- (2) 視覚感受性期にある乳幼児を対象とした「目の健康チェックシート」を引き続きインターネットホームページに掲載（ダウンロード可能）するとともに、当該文書を2,500箇所各市市区町村保健センターへ配布し、乳幼児期に発見し治療すべき疾患への注意を促した。
- (3) 三歳児健康診査での眼科検査方法を解説した「三歳児健診マニュアル」を引き続きインターネットホームページに掲載し（ダウンロード可能）、検査技術及び精度の地域格差の改善に努めた。
- (4) 成人を対象に眼科各種健診および検診の重要性を啓発する成人版「目の健康チェックシート」を試作し、内容についてさらなる検討を行った。
- (5) 全国で開催される「目の愛護デー」関連事業へ参加協力し、眼保健衛生の普及・向上・啓発に努めた。特に東京都においては、東京都眼科医会が主催するTokyo Eye Festivalに参加し、視力検査、ロービジョンコーナー、3Dコーナー、ミニレクチャー（視能訓練士の仕事・視覚障害者の介助）で来場者に技術と知識を提供しつつ視能訓練士がquality of visual lifeに果たす役割を広くアピールした。

本協会へ協力あるいは後援（名義借用）の要請があった事業は、以下の通りである。

2014年 10月4日（土）・5日（日）：目の愛護デー「Tokyo Eye Festival」（東京）

参加した視能訓練士：20名 来場者：1,960名

2014年10月 5日（日）：目の愛護デー「緑内障無料検診」（和歌山）

参加した視能訓練士：3名 来場者：86名

2014年10月 5日（日）：目の愛護デー・京都「眼科一般検査」（京都）

参加した視能訓練士：14名 来場者：437名

2. 広報事業

- (1) インターネットホームページ等を通じて社会へ眼保健衛生の啓発と推進を行った。
- (2) インターネットホームページに倫理規程を公示し、視能訓練士の職業倫理の高揚と業務への責任を喚起する活動を行った。
- (3) リニューアルした協会ポスターとリーフレットを会員や関連諸団体へ配布して「視能訓練士」の名称および職務の広報に努めた。
- (4) 東京都看護協会がナイチンゲール生誕記念事業として主催する「看護フェスタ」へ参加し、来場者の視力検査を行い、眼疾患予防を啓発するパンフレットおよび視能訓練士に関するリーフレット

を配布した。

2014年 5月17日(土)：新宿西口イベント広場

参加した視能訓練士： 5名 検査実施者数： 163名

- (5) 中学生・高校生を対象に視能訓練士の職務を、視能矯正学を学ぶ学生を対象に協会活動をそれぞれ紹介する機会を積極的に設け、早期から本職や本協会への興味や理解を促した。前者については、インターネットホームページを通じて視能訓練士の職務および資格取得の方法を紹介するとともに、7月23日(水)にかごしま県民交流センターで開催されたマイナビ九州夢大学 in 鹿児島の「おしごと研究ゾーン」に視能訓練士1名を講師として派遣し、高校生とその教諭21名に対して視能訓練士の業務内容や両眼でものを見ることの重要性を説明した。後者については、協会活動を紹介する機会を積極的に設け、早期から本職や本協会への興味や理解を促すとともに、協会活動に関するCD-ROMを全国の養成校へ配布し、理事を養成校へ派遣して協会活動を説明した。
- (6) 視能訓練士に向けた倫理規程、学会・講習会等の案内、厚生労働省からの通知や求人情報等の配信等を含めインターネットホームページの拡充を行った。

3. 調査事業

- (1) 視能矯正・訓練普及の実態調査を行った。
- (2) 視能の病態および視能矯正の実態調査を行った。
- (3) 2015年度に実施する視能訓練士実態調査のアンケート内容について検討した。
- (4) 新規免許取得者の就業状況調査を行い、新卒者の就業傾向を把握した。
- (5) 定款施行規則を検討し、必要に応じて改定した。

4. 渉外事業

- (1) 国内関係諸団体との相互協力について密に交流を行った。
 - 1) 監督官庁(内閣府)及び関係官庁(厚生労働省・文部科学省)へ、協会の現況について連絡交流を図った。
 - 2) 研究諸団体(日本眼科医会・日本眼科学会・日本弱視斜視学会・小児眼科学会・日本眼光学学会・医療研修推進財団・国際医療技術財団、等)と学術・技能向上の為の提携交流を図った。
 - 3) 医療技術者21団体協議会・東京都医療従事者ネットワーク連絡会に参加し、医療技術者団体間での交流を図り、医療技術者の相互理解を深めた。
 - 4) 国民医療推進協議会(会長：日本医師会会長)へ参加し、同盟団体と協力して国民皆保険制度を守る活動を行った。

2015年1月15日(木) 国民医療を守るための総決起大会

- (1) チーム医療推進協議会へ参加し、医療技術者団体間の連携を深め、医療技術者の社会的地位向上に向けた活動を行った。また、チーム医療に関連して文部科学省高等教育局医学教育課が全国の医療系学部・学科を有する大学に向けて募集した「課題解決型高度医療人材養成プログラム」に応募した各大学の高度医療人材育成プログラムのうち、「他のメディカルスタッフ養成プログラム」のペーパーフェリーとして協会理事1名が参加し、プログラム内容の評価を行った。
- (2) 国外の視能矯正学分野に関係する団体と交流し、知識・技術の提携を行った。
 - 1) 国際視能矯正協会代表者会議及び年次総会に出席した。

2014年国際視能矯正協会(IOA)理事会 2014年 11月28～30日：京都

2014年国際視能矯正協会(IOA)年次総会 2014年 11月29日：京都
 - 2) アジアの友好国(フィリピン、タイ、カンボジア、モンゴル、シンガポール等)との関係を深め、

眼科学学校健診をテーマにセミナーを開催した。

2014年9月8日（月）～12日（金）：モンゴル ウランバートル 参加した視能訓練士：2名
今年度は、眼科学学校健診をテーマにセミナーを開催し、345名の視覚健診を実施した。視覚健診にはモンゴルの眼科医35名と学校医（内科医）40名が参加し、斜視8名、要眼科精密検査9名、要眼鏡児35名が発見されたため、モンゴル眼科医協会がケアにあたることになった。本結果をモンゴル保健省とウランバートル市保健局に報告し、ウランバートル市保健局より感謝状が授与された。

3) 国際小児眼科斜視学会設立会議へ参加し、事業に協力した。

AAPOS-IPOSC (American Association for Pediatric Ophthalmology and Strabismus
-International Pediatric Ophthalmology and Strabismus Council)

2014年11月29日（土）：日本 京都国際会議場 参加した視能訓練士：1名

4) 京都で2014年12月1日（月）～4日（木）に開催された第12回国際斜視学会の国内開催準備を支援した。

5) 2020年に開催される国際視能矯正学会の開催国選挙に立候補し、誘致活動および11月28日（金）に開催されたIOA年理事会で誘致プレゼンテーションを行った。日本以外にはアメリカとイギリスが立候補し、理事の投票によりイギリスでの開催が決定した。

5. 出版事業

(1) 日本視能訓練士協会誌（学術論文集、第43巻）を雑誌として発刊（6400冊）し、電子ジャーナル（J-STAGE）を公開した。

(2) 日本視能訓練士協会会報（第123号、第124号）を2014年10月と2015年3月に発行した（第123号：6600冊、第124号：6900冊）。

6. 災害時支援事業

(1) 東日本大震災の被災地区における眼科医療活動（プロジェクト・ビジョンバン）へ参加協力し、北海道および被災県を含む東北6県において主に被災者を対象とした眼科検診を検査面から支援した。

宮城県	42名	(13回)	
岩手県	14名	(6回)	
福島県	4名	(2回)	
北海道	4名	(1回)	
山形県	5名	(2回)	
青森県	4名	(2回)	
秋田県	4名	(2回)	計 81名 カッコ内は出務回数

(2) 首都圏での大規模災害発生時、公益目的事業の遂行に必要な事務局環境の整備改善を行った。

【2】国民に良質で安全な医療技術を提供するための視能訓練士教育事業

1. 学会事業

(1) 日本視能矯正学会を開催し、次年度以降の学会開催準備を行った。

1) 第55回(2014年)学会開催準備及び開催

2014年11月29日（土）：京都国際会議場 イベントホール（京都）

学会テーマ：「The NEXT」～次世代のスペシャリストを目指して～

学 会 長 : 河 賀 友 紀 (神 戸 大 学 医 学 部 附 属 病 院)
名 誉 会 長 : 中 村 誠 (神 戸 大 学 大 学 院 医 学 研 究 科 外 科 系 講 座 眼 科 学)
参 加 者 : 1,508名 (会 員 1,147名、非 会 員 190名、学 生 171名)

2) 第56回 (2015年) 学会開催準備

2015年11月7日(土)・8日(日): 東京国際フォーラム

学 会 長 : 根 本 加 代 子 (根 本 眼 科)

名 誉 会 長 : 根 本 龍 司 (根 本 眼 科 院 長)

3) 第57回 (2016年) 学会開催準備

2016年10月15日(土) 16日(日) 大阪国際会議場

学 会 長 : 松 本 富 美 子 (近 畿 大 学 堺 病 院)

4) 第58回 (2017年) 学会開催準備および学会長選考

(2) 日本臨床眼科学会視能訓練士プログラムを開催し、次年度の開催準備を行った。

1) 第68回日本臨床眼科学会

2014年11月13日(木)～11月16日(日)

会 場 : 神 戸 ポ ー ト ピ ア ホ テ ル

テ ー マ : 「 白 内 障 術 前 検 査 ～ コ ツ と 落 と し 穴 」

参 加 者 : 650名

2) 第69回日本臨床眼科学会視能訓練士プログラム準備

2015年10月22日(木)～10月25日(日)

会 場 : 名 古 屋 国 際 会 議 場 ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋

3) 国際眼科学会 (WOC) ・ 第118回日本眼科学会総会合同学会教育セミナー

2014年4月6日(日)

会 場 : 東 京 国 際 フ ォ ー ラ ム ガ ラ ス 棟 会 議 室 701 (東 京)

テ ー マ : 視 空 間 に お け る 物 体 の 脳 内 表 象

演 者 : 網 膜 レ ベ ル と 認 識 を つ な ぐ も の 二 唐 東 朔 (東 北 メ デ ィ カ ル 学 院)

物 体 形 状 の 細 胞 レ ベ ル で の 表 現 藤 田 一 郎 (大 阪 大 学 生 命 機 能)

物 体 形 状 で の f M R I 上 で の 表 現 重 柁 博 昭 (高 知 工 大 ・ 情 報)

視 空 間 無 視 に お け る 物 体 表 現 (札 幌 医 大 ・ リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン)

参 加 者 : 130名

2. 講習研修事業

(1) 講演会を開催し、次年度の開催準備を行った。

1) 第30回開催 2014年6月8日(日): 大阪商工会議所(大阪)

講 演 内 容 : 「 小 児 の 眼 疾 患 と 視 機 能 up to date 」

演 者 : 野 村 耕 治 (兵 庫 県 立 こ ど も 病 院)

参 加 者 : 494名 (会 員 422名、非 会 員 13名、学 生 59名)

2) 第31回開催準備

2015年6月14日(日): 日本消防会館(東京)

(2) 研修会を開催し、次年度の開催準備を行った。

1) 第13回研修会開催 2014年6月8日(日): 大阪商工会議所 第30回講演会と併催

研 修 内 容 : 「 難 し い 眼 鏡 処 方 検 査 の コ ツ 」

参加者：494名

2) 第14回研修会開催準備 2015年6月14日(日)：(東京) 第31回講演会と併催

(3) 光学と眼鏡に関する研修会を後援し、次年度の開催準備に協力した。

2014年8月9日(土)・10日(日)眼光学チュートリアルセミナー

参加者：115名

3. 教育事業

(1) 視能訓練士生涯教育制度の各教育プログラムを実施した。

1) 新人教育プログラム

講義日程

2014年7月20日(日)・21日(月・祝) 機械振興会館(東京)

受講者：107名

2014年9月14日(日)・15日(月・祝) 大阪商工会議所(大阪)

受講者：110名

技術日程 ブロック単位開催

北海道ブロック

8月31日(日)両眼視・眼位・眼球運動検査

吉田学園医療歯科専門学校

9月21日(日)視野検査

吉田学園医療歯科専門学校

10月19日(日)視力・屈折検査

吉田学園医療歯科専門学校

東北ブロック

10月12日(日) 視野検査

仙台医健専門学校

10月13日(月・祝) 両眼視・眼位・眼球運動検査

仙台医健専門学校

11月9日(日)視力・屈折検査

東北文化学園大学

関東甲信越ブロック

7月27日(日)視力・屈折検査

帝京大学医療技術学部

8月24日(日)視野検査

帝京大学医療技術学部

2015年1月25日(日)両眼視・眼位・眼球運動検査

帝京大学医療技術学部

東京ブロック

7月27日(日)視野検査

帝京大学医療技術学部

8月24日(日) 両眼視・眼位・眼球運動検査

帝京大学医療技術学部

2015年1月25日(日)視力・屈折検査

帝京大学医療技術学部

東海・北陸ブロック

7月6日(日)両眼視・眼位・眼球運動検査

愛知淑徳大学

8月3日(日)視野検査

愛知淑徳大学

10月12日(日)視力・屈折検査

愛知淑徳大学

近畿ブロック

6月22日(日)視力・屈折検査

関西医科大学附属枚方病院

7月5日(土)視野検査

大阪医専

7月27日(日)両眼視・眼位・眼球運動検査

大阪医療福祉専門学校

中四国ブロック

7月6日(日)視力・屈折検査

川崎医療福祉大学

10月19日(日)視野検査	川崎医療福祉大学
2015年3月8日(日)両眼視・眼位・眼球運動検査	川崎医療福祉大学
九州ブロック	
10月12日(日)視力・屈折検査	大分視能訓練士専門学校
10月19日(日)両眼視・眼位・眼球運動検査	熊本大学医学部山崎記念館
2015年1月12日(月・祝)視野検査	大分視能訓練士専門学校

受講者合計：414名

2) 基礎教育プログラム

基礎教育プログラムⅠ 開催

2014年7月19日(土)・20日(日)・21日(月・祝) 機械振興会館(東京)

受講者：178名

2014年9月13日(土)・14日(日)・15日(月・祝) 大阪商工会議所(大阪)

受講者：150名

基礎教育プログラムⅢ 開催

2014年8月2日(土)・3日(日) CIVI新大阪東(大阪)

受講者：視能矯正36名 視能障害33名

2014年10月25日(土)・10月26日(日) 機械振興会館(東京)

受講者：視能矯正35名 視能障害36名

3) 専門教育プログラム

専門教育プログラムの実施に向け、2014年度は教育プログラム実施案を立案するとともに、専門教育プログラムに使用する専門書を作成すべく、その企画と出版を依頼する出版社の検討を行った。

(2) 公益財団法人医療研修推進財団が主催する実習施設指導者等養成講習会を後援した。

2014年7月19日(土)・20日(日)・21日(月・祝) 機械振興会館(東京)

受講者：68名(全員修了、修了者通算1,269名)

(3) 施設見学研修を行った。

実習施設指導者等養成講習会修了者が勤務する施設で、2014年9月から2015年3月の間、希望者に対して施設の見学および研修を行った。

(実施施設：14施設 参加者：19名)

(4) 「眼科スタッフビデオ」シリーズのDVDを希望者に貸し出し、技術研修に役立てた。

その他の事業(相互扶助等事業)

視能訓練士の資質向上を目的とした自己研鑽を奨励し、学術技能を評価して認定および表彰する事業

1. 認定視能訓練士に関する事業

(1) 視能訓練士生涯教育制度基礎教育プログラムを修了し、所定の条件を満たす者を「認定視能訓練士」と認定した。(2014年度新規認定：84名、認定者合計307名)

(2) 専任教員認定制度の認定条件を満たす者を「認定専任教員」と認定し、以後5年ごとの認定更新を行った。(2014年度新規認定：1名、認定更新：10名、認定者合計26名)

(3) 視能訓練士専任教員認定制度を見直し、改定した。

2. 学術奨励賞に関する事業

(1) 日本視能訓練士協会誌第43巻に投稿された学術論文の対象論文から選考し、以下の2論文に授与した。

受賞論文：「斜視手術中の回旋偏位測定の試み」

受賞者：佐々木 翔氏(帝京大学医学部眼科学講座)

受賞論文：「小児に対するアトロピン硫酸塩点眼薬による副作用の発現率と症状」

受賞者：外山 恵里氏(近畿大学医学部附属病院)

「附記」

2014年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な項目」が存在しないので作成しない。 以上